

「西郷は、美しい女を見れば心動き、
物欲は少なくとも功名心は十分にあったろうし、
情熱的な一方で潔癖で癩癩も強かった。

例えば、彼が「天を怨まず、人を怨まず」と言う時、
彼がどんなに天を怨み、人を怨んだかを思わずにおれない。

京都先行事件の時には、
同志を裏切ったと思う堀某を面罵して久光に讒言される結果となった。

沖永良部島での檻舎入牢中も、
自分を陥れたと思う久光側近の中山某が、
非を悔い、島の新任の代官に西郷の世話を頼んだと聞いて、
「信じられぬ、ウソをつくな」と激怒したという。

だが、一方では、陽明学から受けた影響下、
一個の理想に適う人格として自分と造ろうと試み、努めた。

そこにはもとより欠陥や矛盾もあったが、
**彼自身の主観においてはまことに純粹であり、
真実であったことを私は疑わない。・・・」**

また「氷川清話」を編した勝部真長氏は西郷の体質に言及し、
上田氏と同じ論旨を次のような言葉で表現している。

「・・・西郷は、巨漢肥満の大男によくある循環気質で、
外向的で、他者や外界に素朴で温かな関心を抱き、
感情豊かで、現実的であるが、
気分的に躁と鬱の両極に揺れることがあり、
鬱に傾くと、神経質で、好き嫌いの激しいところがある。
元横綱の、例えば大乃国（189センチ、201キロ）を思い浮かべてみても分かるが、非常に気が
小さく、内向的で、一つこだわり出すと自分の力を発揮できずに畏縮してしまう。

もちろん稽古不足で鍛えのかかってない大乃国と
西郷さんでは較べものにならないが、
禅等で修養したはずの西郷でさえ、

一旦嫌になったら嫌なのである。……」

お二人の見方はポイントをついている。

たしかに、彼の熱血性が時としてコントロールを失い、感情の起伏の激しさ、というマイナーな形で露呈する場面がある。

この点は言い訳できないのだが、西郷の身になって考えてみると、

感情に流されるように見える時、

その裏にはいつも彼なりの「正義感」と「勇気」がチラついている。